

国際認証制度 ASC の取り組みについて

私たち株式会社マルキンは、銀鮭養殖が将来にわたって継続する産業とするため国際認証制度 ASC(Aquaculture Stewardship Council：水産養殖管理協議会)に取り組んでいます。ASC 認証では、養殖魚のトレーサビリティ(生産履歴)の管理はもちろんのこと、自然環境の汚染や資源の過剰利用の防止に加え、労働者や地域社会との誠実な関係構築が求められています。

ASC 認証に取り組むにあたり、当社では以下の宣言をいたします。

- ・周囲の環境資源に影響を与えないよう、生簀からの逃亡がないよう努めます。
- ・周囲の自然環境保護のため、野生動物の殺駆除を行いません。
- ・野生動物の死亡事故を発見した際の対策方針を表明します。
- ・養殖施設での音響退避装置を使用しません。
- ・養殖場で発生した非生物系廃棄物を海上に廃棄しません。

養殖魚が逃亡し自然環境に影響を与えぬよう、生簀や網に損傷がないか日常的に点検し逃亡防止に努めています。自然環境と野生動物へ配慮し、銀鮭養殖の自然への影響が最小限となるよう努め野生動物の殺駆除は行いません。海洋哺乳類に影響があるとされる音響退避装置は使用せず、生簀には天井網を設置し鳥類の侵入を防ぎ事故防止に努めています。養殖に係る作業で発生した非生物系廃棄物は専門業者へ委託し適切な処理をします。養殖場において野生生物の偶発的な死亡が発生した場合は調査・対策を講じ再発防止に努めます。

〈逃亡等発生件数〉

2019年11月～2020年7月期	0件
2020年11月～2021年7月期	0件
2021年11月～2022年7月期	0件
2022年11月～2023年3月期	0件

〈野生生物死亡件数〉

2019年11月～2020年7月期	0件
2020年11月～2021年7月期	0件
2021年11月～2022年7月期	0件
2022年11月～2023年7月期	0件
2023年11月～2024年7月期	0件

- ・使用する飼料は ASC 基準に基づき、天然資源でやさしい環境に配慮された飼料を使用します。

ASC 基準に基づき、原料からの生産履歴が確立した天然資源にやさしい環境に配慮した飼料を使用します。養殖魚用飼料は、国内外の法令に従った安心安全な信頼できるものを使用しています。使用されている原料については、トレーサビリティ及び持続的生産が可能な原料を使用していますが、植物原料の一部に遺伝子組み換え不分別の原料が含まれます。遺伝子組み換え不分別の原料については下記をご参照ください。

引用元：独立行政法人農林水産消費安全技術センター

http://www.famic.go.jp/ffis/feed/sub3_gmo.html

・遺伝子導入の鮭の養殖は行わず、薬剤・害虫駆除剤等を使用せず周囲の環境に配慮します。

養殖する種苗には遺伝子組換え種は導入しません。

常に魚の健康管理に努め、これまで銀鮭の海面養殖での薬品等使用はありません。

〈薬品等使用歴〉

2019年11月～2020年7月期	無し
2020年11月～2021年7月期	無し
2021年11月～2022年7月期	無し
2022年11月～2023年7月期	無し
2023年11月～2024年7月期	無し

・寄生虫、魚病の発生を常にモニタリングし、養殖魚の健康管理に努めています。

・サケジラミの調査報告を行います。

銀鮭の養殖が周辺海域の天然サケマス資源に影響を与えないよう、天然サケ、養殖銀鮭のモニタリングを行っています。特にサケジラミについては常にモニタリングをおこない動向確認に努めています。

天然サケについては女川魚市場に水揚げされた野生種（シロザケ、サクラマス等）を目視確認しサケジラミの有無を確認します。

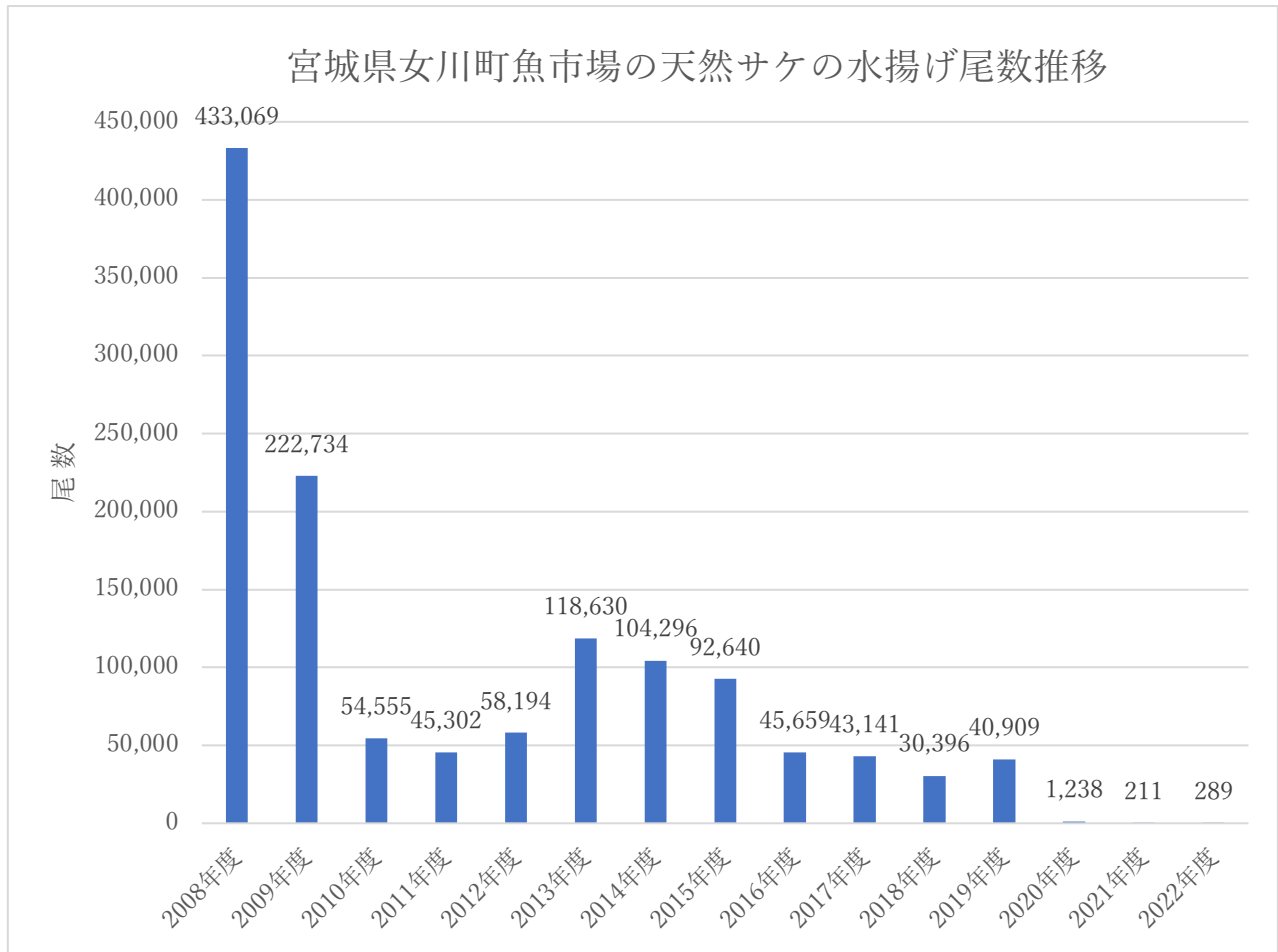
〈野生種モニタリング結果〉

調査日	魚種	数量	サケジラミ確認数
2022年11月2日	シロザケ	36.7kg	0個/14尾
2022年11月26日	シロザケ	13.0kg	0個/5尾
2022年12月5日	シロザケ	6.6kg	0個/3尾
2023年1月25日	シロザケ	2.5kg	0個/1尾

弊社ではASCサケ基準に基づき、数年間にわたってサケジラミを監視するために調査を行ってきました。

養殖場が立地している宮城県女川町は天然のサケが9月～翌年1月に漁獲される地域ですが、近年は水揚げ尾数は下記のように激減しています。

宮城県女川町魚市場の天然サケの水揚げ尾数推移



宮城県女川町魚市場天然サケ類水揚げ尾数月別推移(2021年度～)

	9月			10月			11月			12月			1月			合計	
	～上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬		
2021年度	0	0	3	6	9	58	122	5	3	3	0	0	2	0	0	211	
2022年度	2	0	2	29	64	53	81	34	15	4	0	0	4	0	1	289	
2023年度	3			0			4	3 *2023年度は11月上旬までが直近公表値									

銀鮭稚魚生簞入り 例年11月中旬以降

→ 在池7月下旬まで

天然サケ類と養殖場内の銀鮭が同一海域で生息するのは11月中旬から翌年1月末までの最長80日間です。
データ出典: 宮城県さけ捕獲・採卵速報

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/suikisei/r5salmonsokuhou.html>

天然サケの水揚げ量の減少に伴い随時の調査が困難となっていることから、従来の調査に加え、月次で自社養殖場のモニタリング結果を宮城県水産技術総合センターに報告する際に、天然サケと県下の養殖場でのサケジラミ発見の有無について照会することにより天然サケジラミの調査としております。

養殖場では毎日の給餌作業と合わせて、へい死魚の回収を行いサケジラミ等の寄生虫の付着がないか目視確認しています。回収したへい死魚は専門業者へ委託し適切な処理をしております。

弊社養殖場においてこれまでサケジラミの発生は確認されておきませんが、研究機関とも情報共有し周辺養殖場で発生が確認された際に情報提供いただく体制をとっております。

〈養殖場モニタリング結果〉

2019年11月～2020年7月期	0個/尾
2020年11月～2021年7月期	0個/尾
2021年11月～2022年7月期	0個/尾
2022年11月～2023年7月期	0個/尾
2023年11月～2024年7月期	0個/尾

※暫定基準値 0.5 個体/尾

※サケジラミ被害はこれまでにないため、駆虫薬等の薬品使用歴はありません。

・公共機関等の野生生物への影響評価調査が行われる際には調査に協力します。

上記の調査以外にも公共機関等の野生生物への影響評価調査が行われる際には調査に協力します。

・法令を遵守し健全な労働環境を提供します。

人権、階級、出身国、年齢、性別、性的指向、宗教、障害等による差別を行いません。

就業規則に則り、行き過ぎた懲戒は行わず、労働者の向上を目的とした実効性のある懲戒を行います。

その他、銀鮭養殖事業について、ご意見ご質問等ございましたらお問い合わせフォームよりご連絡お願い致します。